

## 中学校 国語

### 解答についての注意点

- 1 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。
- 2 大問 **1** ～ 大問 **3** については、マーク式解答用紙に、大問 **4**、**5** については、記述式解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙が配付されたら、まずマーク式解答用紙に受験番号等を記入し、受験番号に対応する数字を、鉛筆で黒くぬりつぶしてください。  
記述式解答用紙は、全ての用紙の上部に受験番号のみを記入してください。
- 4 大問 **1** ～ 大問 **3** の解答は、選択肢のうちから、**問題で指示された解答番号の欄**にある数字のうち一つを黒くぬりつぶしてください。  
例えば、「解答番号は  1」と表示のある問題に対して、「**3**」と解答する場合は、**解答番号  1** の欄に並んでいる ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を黒くぬりつぶしてください。
- 5 間違っただけでぬりつぶしたときは、消しゴムできれいに消してください。二つ以上ぬりつぶされている場合は、その解答は無効となります。
- 6 その他、係員が注意したことをよく守ってください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

I

次の(1)～(5)の問いに答えよ。

(1) 次のうち、「中学校学習指導要領」(平成29年3月告示)の「第2章 各教科 第1節 国語

第2 各学年の目標及び内容」に示されている第2学年の「2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕

C 読むこと」の「(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」に

示されている内容として正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

1 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

2 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事。

3 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

4 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

5 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

(2) 次の各文は、「中学校学習指導要領」(平成29年3月告示)の「第2章 各教科 第1節 国語

第2 各学年の目標及び内容」に示されている第1学年～第3学年の各学年の「2 内容〔知識及び技能〕」の「(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」

に示されている一部であるが、それぞれの文と指導学年の正しい組合せはどれか。1～5から

一つ選べ。解答番号は

A 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。

B 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

C 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

D 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

E 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

1 A 第1学年 B 第3学年 C 第2学年 D 第1学年 E 第3学年

2 A 第3学年 B 第2学年 C 第1学年 D 第1学年 E 第2学年

3 A 第1学年 B 第2学年 C 第2学年 D 第1学年 E 第3学年

4 A 第3学年 B 第2学年 C 第1学年 D 第2学年 E 第3学年

5 A 第1学年 B 第3学年 C 第1学年 D 第2学年 E 第2学年

- (3) 次の文章は、「敬語の指針」(平成19年2月2日文化審議会答申)のうち、「第一章 敬語についての方」で示されている「第1 基本的な認識」の一部である。空欄①～③に当てはまる語句として正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は [ 3 ]

敬語は、古代から現代に至る日本語の歴史の中で、一貫して重要な役割を担い続けている。その役割とは、人が言葉を用いて自らの意思や感情を人に伝える際に、単にその内容を表現するのではなく、相手や周囲の人と、自らの人間関係・社会関係についての気持ちの在り方を表現するというものである。気持ちの在り方とは、例えば、立場や役割の違い、年齢や経験の違いなどに基づく「敬い」や「へりくだり」などの気持ちである。同時に、敬語は、言葉を用いるその場の状況についての人の気持ちを表現する言語表現としても、重要な役割を担っている。例えば、公的な場での改まった気持ちと、私的な場でのくつろいだ気持ちとを人は区別する。敬語はそうした気持ちを表現する役割も担う。

このように敬語は、言葉を用いる人の、相手や周囲の人やその場の状況についての [ ① ] を表現する言語表現として、重要な役割を果たす。

また、以上のことを別の方向から見直すと、敬語は、話し手あるいは書き手(以下、同じ意味を「話し手」で代表させる。)がその場の人間関係や [ ② ] をどのようにとらえているかを表現するものであると言うこともできる。例えば、「鈴木さんがいらっしゃる」という [ ③ ] は「鈴木さん」を立てて述べる敬語であるが、この敬語を用いることによって、話し手は、自らが「鈴木さん」を立てるべき人としてとらえていることを表現できる。

- |   |             |       |       |
|---|-------------|-------|-------|
| 1 | ① 気持ち       | ② 役割  | ③ 謙譲語 |
| 2 | ① 気持ち       | ② 状況  | ③ 尊敬語 |
| 3 | ① 人間関係・社会関係 | ② 気持ち | ③ 謙譲語 |
| 4 | ① 人間関係・社会関係 | ② 気持ち | ③ 尊敬語 |
| 5 | ① 人間関係・社会関係 | ② 状況  | ③ 尊敬語 |

- (4) 次の文章は、「敬語の指針」(平成19年2月2日文化審議会答申)のうち、「第2章 敬語の仕組み」で示されている「第1 敬語の種類と働き」の一部である。それぞれの敬語の説明として誤っているものはどれか。1〜5から一つ選べ。解答番号は 4

1 尊敬語は、相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの。「お名前」「お忙しい」のように、行為ではなく、ものごとや状態を表す語にも、尊敬語と呼ばれるものがある。例えば「先生のお名前」は「名前」の〈所有者〉である「先生」を、また「先生はお忙しいようですね。」は「忙しい」状態にある「先生」を、それぞれ立てることになる。

2 謙譲語Ⅰは、自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの。「先生のところに向いたんですが……。」と述べる場合、「先生のところに行きたいんですが(先生のところを訪ねたいんですが)……。」と同じ内容であるが、「行く(訪ねる)」の代わりに「伺う」を使うことで、「先生」を立てる述べ方になる。このように、「伺う」は〈向かう先〉に対する敬語として働く。

3 謙譲語Ⅱ(丁重語)は、自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。謙譲語Ⅱのうち、行為を表すもの(動詞)は、次の①又は②のように使うのが典型的な使い方である。①「私は明日から海外に参ります。」のように、「自分」について使う。②「息子は明日から海外に参ります。」のように、「自分の側の人物」について使う。このように、謙譲語Ⅱは、基本的には、「自分側」(①②の場合をまとめてこう呼んでおく。)の行為に使う。

4 丁寧語は、話や文章の内容に対して丁寧に述べるもの。「次は来月十日です。」は「次は来月十日だ。」と、また「6時に起きます。」は「6時に起きる。」と、それぞれ同じ内容であるが、「です」「ます」を文末に付け加えることで、話や文章の内容に対して丁寧さを添えて述べることになる。このように、「です」「ます」は〈内容〉に対する敬語として働く。

5 美化語は、ものごとを、美化して述べるもの。「お酒は百薬の長なんだよ。」などと述べる場合の「お酒」は、尊敬語である「お導き」「お名前」等とは違って、〈行為者〉や〈所有者〉を立てるものではない。また、謙譲語Ⅰである「(立てるべき人物への)お手紙」等とも違って、〈向かう先〉を立てるものでもない。

(5) 次のa～eは『古今和歌集』所収の和歌である。それぞれの和歌の説明として誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典…新日本古典文学大系5 古今和歌集

岩波書店

33ページ4行目から5行目まで、42ページ6行目から7行目まで、  
49ページ6行目から7行目まで、134ページ1行目から3行目まで、  
144ページ4行目から6行目まで

- 1 aは小野篁の歌で「大海を多くの島々めぐして漕ぎ出てしまったと、都の人々にはつげてくれ、漁師の釣舟よ。」の意。
- 2 bは小野小町の歌で「花の色は衰えてしまったことだなあ。なすすべもなく空しく、わたし自身がこの世でもの思いをしながら過ごしている間に、長雨が続いて。」の意。
- 3 cは菅原道真の歌で「もしこの世の中に全く桜がないとするならば、春の心は、まことにのどかではないでしょう。」の意。
- 4 dは紀貫之の歌で「小倉山のあの峰をそこに立って踏みならしながら悲しく鳴く鹿が、過ごして来たであろう秋の季節の長い年月を本当にわかっている人などいないのだ。」の意。
- 5 eは紀友則の歌で「日の光がのどかに照らすこの春の日に、どうして落ちついた心もなく桜の花が散るのだろうか。」の意。

2

次の文章を読んで、あとの(1)～(6)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：近代デザインの美学

高安啓介著 みすず書房

240ページ11行目から244ページ14行目まで

(高安啓介『近代デザインの美学』より)

(1) 〓部A、B、Cのカタカナを漢字になおすとき、同じ漢字を含むものはどれか。1～5からそれぞれ一つ選べ。解答番号は、Aは 、Bは 、Cは

A ソクシン

- 1 ソクザに返答する。
- 2 天体をカンソクする。
- 3 納入をサイソクする。
- 4 説明をホソクする。
- 5 ヘイソク感が漂う。

B モホウ

- 1 水草がハンモする。
- 2 唐草モヨウの布。
- 3 ウンモを顔料に使う。
- 4 海のモクズとなる。
- 5 モハヤ手に負えない。

C ドウサツ

- 1 セイドウ器を铸造する。
- 2 イチドウに会する。
- 3 審判がタイドウする。
- 4 幹がクウドウになる。
- 5 心臓のコドウが速くなる。

(2) 〓部①について説明したものととして、最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は

- 1 学問としての美学は、とくに芸術の哲学として発展することで感性論を成立させた点。
- 2 学問としての美学は、美という用語をどう理解したらよいかの議論だったといえる点。
- 3 学問としての美学は、現代においては意識の問題にかかわるものと理解され始めた点。
- 4 学問としての美学は、芸術について論じるための用語にかかわるといふ側面がある点。
- 5 学問としての美学は、実際においては芸術を論じるための用語をつくる議論である点。



(3) — 部②について本文中で述べられている内容として最も適切なものはどれか。1〜5から1つ選べ。解答番号は 。

- 1 芸術各分野において使われる用語が、日常生活のうちに使われているという食い違いが生じていないかを反省することが芸術の知となる。
- 2 芸術系の教育機関の名称や、教育分野や教科目の名称は、時代特有の考えを教育方法にどう反映しているかを知る重要な手がかりとなる。
- 3 芸術系の諸分野において自明視されやすい用語は、哲学の成果をよりどころにすることで現代では何をあらわすのかを説明することができる。
- 4 鍵となる用語どうしの対応関係にある食い違いに注目することで、日本における近代主義がいかに定着してきたのかを知ることができる。
- 5 各時代に好んで用いられた用語や分野と分野をまたがって流通する用語などについて論じること、当事者どうしの相互理解がうながされる。

(4) — 部③について本文中で述べられている内容として最も適切なものはどれか。1〜5から1つ選べ。解答番号は 。

- 1 形象自体が平面もしくは空間において作り出された現れであるかぎり、形式のみをそなえた現れとして、そのうちに一種の交通をはらんでいることが前提とされてきた。
- 2 形象自体がそのうちに一種の交通をはらんでいることが前提となつて、部分と部分との相互作用や相互関係のなかで、芸術における伝達の主体は誰なのかを明らかにすることができる。
- 3 形象自体の内容や意味として読み取られるものは、芸術家や社会、作品の形象自体が伝達したものと同様、送り手が意図した、作品の形象のうちの生きて語りかけるような人格である。
- 4 形象自体は、たんに伝達の媒体であるだけでなく、伝達の主体でもあるので、背後の社会とより密接に通じている、芸術家の意図した内容が伝達内容として最も重要になる。
- 5 作品とみなされない形象についても、現代の美学では部分と部分との相互関係のなかから送り手の無意識をつきとめて、送り手の意図を超えた意味をさぐろうとする深読みが進められる。

- (5) 空欄④に入る文の順番として最も適切なものはどれか。1〜5から一つ選べ。

解答番号は 12

- ア しかしむしろ、特殊な伝達のありかたについて考えるほうが、伝達についての理解を深めていくのに有意義にちがいない。
- イ したがって、芸術について説明するときには伝達の働きを持ち出すのがよいのかが問われるだろう。
- ウ そうしたとき、芸術における伝達は、作品の形象をとおした伝達であるかぎり、たしかに、情報通信のような伝達とは異なる。
- エ すなわち、形象がいかなる関係をはらんでいるかを明らかにすることで、形象がいかなる伝達をおこなうかを明らかにする。

- 1 エ ↓ ウ ↓ イ ↓ ア  
2 イ ↓ エ ↓ ウ ↓ ア  
3 ウ ↓ イ ↓ ア ↓ エ  
4 エ ↓ ウ ↓ ア ↓ イ  
5 イ ↓ エ ↓ ア ↓ ウ

- (6) 本文の特徴について説明したものととして最も適切なものはどれか。1〜5から一つ選べ。

解答番号は 13

- 1 現代の美学について、各時代におけるキーワードを時系列に沿って具体的に例示することで、筆者の主張や説明に対する実感を持たせている。
- 2 現代の美学について、部分と全体、意図と無意識、美学と哲学等の相反する要素を比較することで筆者の主張をわかりやすく伝えている。
- 3 現代の美学について、筆者の主張の大枠を冒頭の段落で示した後、そこで示された二つの要点について複数の例を挙げながら詳しく説明している。
- 4 現代の美学について、筆者の主張と反対の意見も取り上げながら、その意見への対応策について説明することで説得力を持たせている。
- 5 現代の美学について、筆者の主張を最後まで明確に示さないことで、芸術における伝達の主体が曖昧であるということを印象づけている。

次の文章は、平安時代の物語『狭衣物語』の一部である。五月雨の夜、貴族たちが帝のもとで管弦の独奏を競演するなか、中将の君（狭衣）はひとり、笛に触ろうともしない。不審に思った帝の強い求めに応じ、気が進まない様子で中将の君が笛を吹くと、その音は不吉なほどに澄み切った音色で美しく響き渡り、帝や東宮をはじめとする宮中すべての人は、心を打たれた。本文はその続きの場面である。これを読んで、あとの(1)～(7)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：新編日本古典文学全集 29 狭衣物語①

小学館

43ページ行目から47ページ2行目まで

〔注〕

雲のはたて | 雲の果て。

天稚御子 | | ここでは、月の都の御子。

角髪 | | 元服前の少年の髪<sup>の</sup>結い方。髪を頭の中央から左右に分けて、そ

れぞれ両耳のあたりで束ねる。

糸遊 | | かげろう。転じて、薄く透明な天の羽衣をさす。

十善の君 | | 帝。

大臣もさらに承けひかじ

| | 「父大臣も決して承諾するまい」の意。

天竺 | | ここでは、この世とかけ離れた別世界をさす。

(1) Ⅱ部A～Eについて、本文中でのそれぞれの文法的説明のうち、誤っているものはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は 14

- 1 Aは主格の格助詞。
- 2 Bは断定の助動詞「なり」の連用形に係助詞が接続した形。
- 3 Cは尊敬の助動詞「す」の連用形。
- 4 Dは謙譲の補助動詞「たまふ」の連体形。
- 5 Eはワ行上一段活用動詞「降りゐる」の連用形。

(2) 本文中の和歌X、Yについて、次の説明のうち最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 15

- 1 Xには「稻妻の光のような帝のご威光に照らされた私は天に昇れない。天人たちよ、雲のかけ橋をかけて地上に降りてきてほしい」という中将の君の願いが、Yには「殿上に昇った私たちは、帝の威光に心打たれたため、もはや空を故郷となつかしむことはないだろう」という天稚御子の思いが詠まれている。
- 2 Xには「笛の音は天まで昇り稲妻の光にも届くだろう。天上の世界でははるか遠くまで雲の架け橋が渡されているのだ」という中将の君の思いが、Yには「おまえの思いが雲の上まで届いたので、私は空を見るごとに、笛の音とともに今夜の出来事を思い出そう」という帝の思いが詠まれている。
- 3 Xには「稻妻の光とともに私は天にまで昇って行こう。大空のはるか彼方まで渡しなさい、雲の掛け橋を」という中将の君の思いが、Yには「私が雲の上の天まで昇ってしまったら、帝はこの空を見て私を思ってくださるだろうか、いや、ぜひともそうあってほしい」という中将の君の願いが詠まれている。
- 4 Xには「稻妻の光が天をくまなく照らすように、帝のご威光よ、笛の音とともに雲の架け橋を渡り、人々のもとに行きわたれ」という中将の君の願いが、Yには「笛の音が雲の上まで響き渡っているので、私は天にある空を見るごとに今夜の体験を思い出すのだろうか」という中将の君の思いが詠まれている。
- 5 Xには「稻妻の光とともに私も月に行くとしたら、その道が月まではるかかな雲の橋になつてほしい」という中将の君の願いが、Yには「おまえが雲の上の世界に昇ってしまったら、これからは空をおまえの名残だと思って見ることになるのか、いや、そうはさせない」という帝の思いが詠まれている。

(3) — 部①について、帝がこのように思った理由として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 中將の君が、地上との別れを惜しみながらも天稚御子にうながされて立ち去ろうとしたため、無理に笛を吹かせてこのような事態を招いた自分の行いを省みたから。
- 2 自分の威光をたたえながらも、あっさり現世への思いを捨てて御子とともに立ち去ろうとする中將の君の変わり身の早さに驚き、腹立たしく思ったから。
- 3 自分が笛を吹かせたことで起こった怪異を天上の音楽によって鎮め、その代償として中將の君を連れ去ろうとする天稚御子の力に、無力さを感じたから。
- 4 中將の君が、御子とともに立ち去ってしまったため、このような形で息子と離れ離れになってしまった父大臣に対して合わせる顔がないと思ったから。
- 5 羽衣を着せられた中將の君が立ち去ったあとにひとり残されたことで、中將の君を天上へ連れ去ってしまった御子に対して強い憤りを覚えたから。

(4) 空欄Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに当てはまる語の組み合わせとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- |   |      |      |      |
|---|------|------|------|
| 1 | Ⅰ さへ | Ⅱ のみ | Ⅲ だに |
| 2 | Ⅰ のみ | Ⅱ さへ | Ⅲ だに |
| 3 | Ⅰ だに | Ⅱ さへ | Ⅲ のみ |
| 4 | Ⅰ さへ | Ⅱ だに | Ⅲ のみ |
| 5 | Ⅰ だに | Ⅱ のみ | Ⅲ さへ |

(5) — 部②、③、⑤について、本文中における意味として最も適切なものはどれか。1～5からそれぞれ一つ選べ。解答番号は、②は 、③は 、⑤は

- ②
- |   |                   |   |             |
|---|-------------------|---|-------------|
| 1 | みじめな思いでご覧になった     | 2 | おそれ多くご覧になった |
| 3 | 目の覚めるような思いでご覧になった | 4 | 苦々しくご覧になった  |
| 5 | 驚きあきれてご覧になった      |   |             |

- ③
- |   |       |   |       |
|---|-------|---|-------|
| 1 | 文章の体裁 | 2 | 和歌の意匠 |
| 3 | 漢詩の情意 | 4 | 声の美しさ |
| 5 | 手紙の内容 |   |       |

- ⑤
- 1 この上なく心にかけて大切に世話し申し上げなさって
  - 2 すべての願いを聞き届け申し上げて
  - 3 誰よりも丁寧に養育しあそばして
  - 4 いつもお褒めの言葉をかけあそばし申し上げて
  - 5 絶え間なく思い続けいつくしみ申し上げあそばして

(6) — 部④とあるが、このことを具体的に説明したものととして最も適切なものはどれか。1〜5から一つ選べ。解答番号は

- 1 天稚御子とのやりとりで心を奪われている様子から、帝は、中将の君がいつそう笛を吹くことへの関心を失うのではないかと気をもんでいるということ。
- 2 天稚御子が去ってからもなお空を見て物思いにふけている様子から、帝は、中将の君がますます人間世界への未練をなくしてしまうと危惧したということ。
- 3 天稚御子の面影を求めて空を眺めてばかりいる様子から、帝は、中将の君の心に早くも天上へのあこがれが芽生えてしまったのだと確信したということ。
- 4 美しい天上の音楽を聴いた日から数日が経ってなお名残惜しそうにしている様子から、帝は、中将の君はもう二度と笛を吹かないだろうと悟ったということ。
- 5 管弦の夜を忘れられぬまま夜を明かした様子から、帝は、中将の君が立身出世や結婚のよくな世俗的な営みに興味をなくしたのではないかと不安がったということ。

(7) 本文の内容に合致しないものはどれか。1〜5から一つ選べ。解答番号は

- 1 中将の君が音の続く限り吹いた笛の音色は、月の都の人の心を動かさずにはいられないよううなすばらしいものだった。
- 2 天稚御子が薄い衣を中将の君にちよっと着せかけると、中将の君はこの世のことも忘れ、天稚御子のすばらしい姿にひどく心ひかれた。
- 3 天稚御子は、帝が中将の君との別れを泣いて惜しんだため、中将の君を天上にむりやり連れて行くことができなくなってしまった。
- 4 天稚御子との別れを惜しむ中将の君の声や姿のすばらしさに、この夜以降、世の人々は、中将の君を天人だと噂するようになった。
- 5 帝は、自身の二の宮の魅力で中将の君の心を紛らし、中将の君が別世界にさまよい出てしまふのをとどめられるのではないかと考えた。

次の文章を読んで、あとの(1)～(6)の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：説苑

劉向著 講談社

97ページ3行目から99ページの終わりまで

〔注〕

子路		孔子の弟子、姓は仲、名は由。
蒲		地名。今の河北省長垣県。
溝瀆		水路。
一簞食・一壺漿		一杯の飯と一杯の飲み物で、ささやかな食事をいう。
子貢		孔子の弟子、姓は端木、名は賜。

(『説苑』より)



(1) — 部①、②、⑥について、本文中における読みをひらがなでそれぞれ答えよ。

(2) — 部③、⑤の書き下し文として、それぞれ最も適切なものはどれか。ア～オから一つずつ選べ。

③

ア 子貢を使ひ復た之くつがへく

イ 子貢を使ひ之を復す

ウ 子貢をして復た之ゆかかしむ

エ 子貢をして之を復くつがへさしむ

オ 子貢に復た之を使ふ

⑤

ア 由や暴雨を以て将至り、水災有るを恐れ

イ 由や暴雨を以て将至り、恐らくは水災有り

ウ 由や暴雨を以て将に至るべく、水災有るを恐れ

エ 由や暴雨の将に至りて、水災有るを恐るるを以て

オ 由や暴雨の将に至らんとし、恐らくは水災有るを以て

(3) — 部④、⑨は、それぞれ誰のことか。ア～オから一つずつ選べ。

ア 子路

イ 民

ウ 孔子

エ 子貢

オ 君

(4) — 部⑦を、「之」の指す内容を具体的に明らかにしながら、現代語訳せよ。

(5) — 部⑧の理由として最も適切なものはどれか。ア～オから一つ選べ。

ア 子路の、災害に対する心構えが不十分であったため。

イ 子路の、苦境に対する支援が少なすぎたため。

ウ 孔子の、子貢に対する指導に不満があったため。

エ 孔子の、仁に対する姿勢に矛盾を感じたため。

オ 子貢の、自身に対する発言に同意できなかったため。

(6) — 部⑩とあるが、誰の、どのような行為が、なぜ「罪」になるのか。本文に即して、四十五字以上五十五字以内で説明せよ。

5

次の文章を読んで、あとの(1)～(5)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：芥川龍之介の世界

中村真一郎著 岩波書店

44ページ13行目から48ページ5行目まで

(中村真一郎『芥川龍之介の世界』より)

(1) 〓部A、Cのカタカナを漢字になおせ。

(2) 次の作品のうち、――部①、②それぞれの作品はどれか。ア、コから二つずつ選べ。

ア	金閣寺	イ	藪の中	ウ	古都	エ	細雪	オ	砂の女
カ	壁	キ	潮騒	ク	風媒花	ケ	刺青	コ	地獄変

(3) 〓部③について説明したものととして、最も適切なものはどれか。ア、オから一つ選べ。

ア 構成や文体の完成とともに多様性を志向し、自身の資質の必然性から作り上げた型を崩しつつ前衛的に挑戦を続ける仕事。

イ 作者自身の精神状態が切迫するにつれて技術的配慮が強く作用する、芸術的成功と人生的感銘の矛盾を読者に感じさせる仕事。

ウ 芸術的完成を追求しながらも自身が携わるジャンルのあらゆる可能性を探り、たえず新しい形式の試みを進めて行く仕事。

エ 個々の作品に読み物としての魅力と芸術的な余裕を内包させた、モザイク細工のような短篇集を次々と組み上げる仕事。

オ 同時代の作家たちが目指した破壊的作業とは無縁に、ひたすら異なった素材と背景と構成と文体とを生み出し続ける仕事。

(4) 空欄④に入る言葉として最も適切なものはどれか。ア、オから一つ選べ。

ア 作品の中における芸術性と技巧性を共存させるべきだという、作者の思想が間接的に表現された物語

イ 作者の主観的な意見を含まず、読者を作品自体の物語内容から客観的な真理へ到達させるような主題

ウ 作者から独立した作中人物の思想や気分を効果的に表すため、完成された文体へ収束させていく手法

エ 作者が現実を客観的に観察するというだけにとどまらず、その作品を作者から切り離す、という仕方

オ 作者や作中の人物たちの主観を排し、ただ客観的な世界のみを芸術的に切り取ってくる、という方法

(5) 〓部⑤とあるが、どのようなことか。本文中の言葉を用いて、五十字以上六十字以内で説明せよ。

